平成30年度　川崎市立図書館　読書普及講演会

「木村草太流　本とのつきあい方」

たくさんの方に読書の楽しさを知っていただこうと、毎年開催している読書普及講演会。今年度は、憲法学者であり、首都大学東京教授としてご活躍されている木村草太先生をお迎えし、10月22日（月）午後6時半から中原市民館で開催しました。講演会のテーマは、「木村草太流　本とのつきあい方」。たくさんの方にお申込みいただき、当日は、232名の方々にご参加いただきました。

講演会では、読書や図書館のことのほか、法律のことやいじめの構造、アフリカのソマリアのことなど様々なジャンルに渡りお話しいただきました。

冒頭では、『クレヨン王国』シリーズや『指輪物語』のお話があり、先生にとっての指輪物語は、アラン･リーの挿絵が使われたものが印象強く、「挿絵も本の大切な要素」という先生の熱い想いが伝わってきました。また、笑ってはいけないシチュエーションでは絶対読んではいけない本として『VOW』（新聞や雑誌の誤植や街の中で見つかった変な看板などが投稿された本）をご紹介いただきました。大学の入試監督として入試合格者の名前をチェックしていた時に、昔見た新聞の誤植記事と今の状況が重なり、笑いのツボに入ってしまいお腹が痛くなるほど大変だった、という普段聞けないようなエピソードもご披露いただきました。

時折、会場には笑い声が上がり、終始穏やかな空気に包まれていました。参加された方からは、「ユーモアを混じえた話で楽しかった」などの声が寄せられたほか、「読書はタイミングが降りてくる」という先生の言葉に多くの共感の声が寄せられました。とても印象的な言葉です。木村先生は、本は自分が好きなものを読めば、いつだって楽しいわけではないので、名著やすばらしい本は、飢えた気分になるまで、追い込んでから読むようにしているそうです。

最後に、木村先生の言葉の一部（要約）をご紹介します。

「図書館は本当に好きな場所。本を読まなくても素敵な体験が出来ます。

そして、図書館は妖しい場所（笑）。図書館には普段一般の人が立ち入れない閉架スペースがありますが、見えない場所が図書館の裏側にあるというのは、何とも興味をかきたてられます。図書館の妖しさは、図書館の魅力でもあります。

自分の本棚、書店、図書館、それぞれに役割があると思います。読書は、様々なメディアによって支えられているということです。私は電子書籍も好きですが、だからといって、自分の本棚に意味がなくなるわけではないです。ましてや、図書館の存在に意味がなくなるわけでもないです。読書体験を積み重ねていくことで、私たちの人生は豊かになると思います。自分の好きな本に出会って、一生をあたためてくれる本に出会っていただければ、と思います。」

県立川崎図書館と中原図書館の合同見学会を開催しました。

12月1日（土）に、中原図書館と県立川崎図書館の合同見学会を行いました。

中原図書館見学は午前中に開催し、冒頭で館の施設の説明をした後、自動書庫の内部や荷捌きスペースなど普段見ることができないバックヤードを中心に施設を見学していただきました。

参加いただいた11名の方々は次々に質問しながら熱心に見学されており、「機械化された書庫に圧倒された」「普段見られない所に行けてよかった」などの感想が寄せられ、内容に満足いただけたようでした。この後、午後の部では県立川崎図書館を見学いただきました。